

河原郁夫氏を偲んで

弘田澄人*・石阪あすみ*

In memory of Mr. Ikuo Kawahara.

Sunito Hirota* and Asumi Ishizaka*

はじめに

川崎市青少年科学館（以下「科学館」という）のプラネタリウム特別投影「星空ゆうゆう散歩」の講師を長年務められた、川崎市文化賞受賞者の河原郁夫氏が 2021 年 3 月 21 日に 90 歳で永眠された。

科学館と日本のプラネタリウムの発展に貢献し、多くのファンに愛された河原氏の足跡を振り返る（図 1）。



図 1. 河原郁夫氏（科学館プラネタリウムにて）

プラネタリウムと河原氏

河原氏は 1930 年、東京市蒲田（現在の東京都大田区）に生まれた。1940 年、小学 4 年生の時に当時東京有楽町にあった東日天文館を訪れ、初めてプラネタリウムを見学した。プラネタリウムが好きになった河原氏は、その後毎週通うほどになったという（河原, 1971）。

師であった水野良平氏の誘いで 1956 年 9 月から天文博物館五島プラネタリウムの開設準備に携わり、翌 1957 年 4 月から解説員として解説台に立った（表 1）。

その後、1962 年に神奈川県に移り、神奈川県立青少年センター（以下「センター」という）のプラネタリウム開設準備に携わった。その後、センターの職員として定年までプラネタリウム投影を続けた。

定年後は嘱託職員としてセンターでの投

影を続けたのち、科学館に週 4 日勤務しプラネタリウム投影を行った。

さらにその後は特別投影「星空ゆうゆう散歩」の講師として月 1 回解説台に立った。

新型コロナウイルスの影響を受け、約 1 年にわたって「星空ゆうゆう散歩」は休止となったが、2021 年 3 月 20 日に特別投影を実施。これが河原氏の最後の投影となった。

表 1. 河原郁夫氏年譜

年	できごと
昭和5 (1930)	東京市蒲田で誕生
15 (1940)	東日天文館で初めてプラネタリウムを見学
30 (1955)	東京理科大学理学部物理学科を卒業
31 (1956)	天文博物館五島プラネタリウム（東京都渋谷区）の開館準備に携わり、翌年より初代解説員の一人となる
37 (1962)	神奈川県立青少年センター（横浜市）にてプラネタリウム設置に携わり、当時は少なかったプラネタリウム施設のため解説者の養成に努める
44 (1969)	川崎市教育委員会の要請でプラネタリウムの設置について進講
46 (1971)	川崎市青少年科学館開館。初代天文担当として若宮崇令氏（のちに館長）を推薦 日本プラネタリウム研究会初代会長就任
平成9 (1997)	科学館の嘱託職員として週4日プラネタリウム投影を行う
10 (1998)	科学館協議会委員就任
24 (2012)	科学館リニューアル。「星空ゆうゆう散歩」開始
28 (2016)	川崎市文化賞受賞
令和3 (2021)	3月20日特別投影「星空ゆうゆう散歩」にて解説台に立つ
	3月21日、自宅にて永眠

なお、河原氏の半生についてはノンフィクション小説として出版されている。綿密な取材に基づいてはいるが、小説ゆえの脚色もあるため、真実とは異なる部分もあることに留意すべきである。

*川崎市青少年科学館（かわさき^{そら}宙と緑の科学館）Kawasaki Municipal Science Museum

科学館とのかかわり

科学館開館に先立つ1968年頃から、川崎市にプラネタリウムを設置したいという機運が生じた。これには、プラネタリウムを建設して学校教育に役立てたいとの教育関係者の意見と、都会の子どもたちに美しい星空を見せてあげたいとの市民の願いが込められていた。

そこで、川崎市教育委員会はセンターの河原氏に機器の選定や運用方法について助言を求めた。

また、科学館開館にあたり、プラネタリウム投影のできる職員の割愛人事を神奈川県に求め、河原氏は部下の一人であった若宮崇令氏を科学館職員として推薦した。

その後も河原氏は科学館の天文教室等での講師の他、科学館協議会委員を務める等、科学館の事業に協力、助言をし、科学館の運営や人材育成にも多大な貢献をした(図2)。



図2. 科学館の天文教室にて(1976)

多くのファンに愛され、川崎市のみならず、日本のプラネタリウムの発展と天文学の普及への多大な貢献に対し、2016年度に川崎市は川崎市文化賞を贈呈した。

プラネタリウム界への貢献

1960年代中ごろから各地にプラネタリウムを持つ施設が建設されるようになった。しかし、当時はプラネタリウムそのものが少なく、投影を行える人材が少なかったため、センターを訪れてプラネタリウムの操作や解説について指導を受けた担当者が多かった。河原氏は1962年頃からこうした研修を受入れ、「河原プラネ学校」と呼ばれるなど多くの解説員を育成した。(河原, 1995) また、こうした育成の経験から「プラネタリウム解説法」(河原, 1976)をまとめ、五藤

光学研究所から発行された。

プラネタリウム以外の活動

河原氏はプラネタリウム以外に、雑誌への寄稿や取材、出版を通じ、また高校や大学の教員として天文学の教育普及を行っていた。

学生時代から始めたという太陽の黒点観測は、五島プラネタリウムのシーロスタット望遠鏡、センターの20cm屈折望遠鏡と続き、その後は自宅の望遠鏡でスケッチ観測を継続していた。

河原資料について

最後に、河原氏所蔵の資料について記しておく。河原氏は研究熱心であり、天文関係だけで数百冊に上る蔵書その他、国内外の天文雑誌、プラネタリウム関連団体の会報等、多くの資料を所蔵している。

また、雑誌等の手書き原稿、自身が書き留めたノート、太陽黒点のスケッチ等も数多く残されている。

これらの中には天文学の歴史や河原氏自身を物語る貴重な資料となり得るものもあり、科学館で保存し、活用すべくご家族の協力のもと整理を進めているところである。

さいごに

プラネタリウムとともに人生を歩み、生涯現役を貫いた河原氏にあらためて哀悼の意を表し、安らかな眠りをお祈りする。

引用文献

河原郁夫, 1971. 社会教育の中のプラネタリウムの活用. プラネタリウム会報 Vol. 1 No. 1.

河原郁夫, 1976. プラネタリウム解説法. 五藤光学研究所.

河原郁夫, 1995. プラネタリウム解説よもやま話.